

平成29・30年度
高崎市公民館運営審議会提言

平成31年3月5日
高崎市公民館運営審議会

— 目 次 —

提言

はじめに	1
------	---

I 地域資源調査の実施方法	2
---------------	---

- 1 地域資源調査の概要
- 2 地域資源調査の手順
- 3 地域資源カードの記入例
- 4 地域資源マップの作成例

II 地域資源の活用による地域づくりへの提案	7
------------------------	---

- 1 公民館等を会場にして地域資源調査の成果報告会を開催する。
- 2 発見された宝を分かりやすくすることや保存・伝承・発展させるための活動を行う。
- 3 同じ地域に住む人々が地域の宝の価値を認識し、価値認識を共有するための活動を展開する。
- 4 地域の宝を活用し、地域から学びを得ることができる学習環境をつくる。
- 5 地域の外に向かって宝の魅力を情報発信していく活動を行い、地域の宝の価値を共有・共感する事業へ発展させる。
- 6 宝の活用によって新たな宝を創り出し、地域に経済的な成果をもたらす仕掛けを創出する。
- 7 町ごとに地域資源としての宝を探す講座やワークショップを開催する。

おわりに	10
------	----

【資料】 1 1

- 1 調査票「地域資源聞き取り調査について」
- 2 地域資源カード
- 3 地域資源カードの記入例 六郷地区
- 4 地域資源カードの記入例 南八幡地区
- 5 地域資源マップの作成例
南八幡地区（山名町・根小屋町）「祭りと行事でつながる」

【参考資料】 3 0

- ・ 審議会実施報告
- ・ 専門委員会実施報告・委員に関わる公民館行事
- ・ 委員名簿

はじめに

平成27・28年度の公民館運営審議会の答申「これからの地域社会に求められる新しい公民館事業のあり方」は、本市の公民館事業について、個人のニーズに応える学習が多くなる傾向があり、公民館の本来の目的であったはずの地域づくりの視点が十分に意識されなくなっていると述べている。

そして、地域住民には、自らの人生を豊かにするとともに、社会の一構成員として地域づくりへの参画が求められること、一方、公民館には、住民主体の地域づくりのための学習と実践の場を提供する施設としての事業展開が求められると指摘している。

さらに、新たに「地域資源の活用による地域づくり」の推進が提起された。その具体的な手法として、住民参加の地域資源調査やワークショップが住民の主体性や連帯感を強化する際に極めて効果的であり、それらの活用が求められている。

そこで本審議会では、住民への地域資源の聞き取り調査の実施を通して、住民自身が主人公となる地域づくりにつなげていくための方策を調査研究し、提言として取りまとめた。

I 地域資源調査の実施方法

1 地域資源調査の概要

地域資源聞き取り調査は、次のような要領に沿って実施された。

(1) 調査目的

「地域資源の活用による地域づくり」の具体的な手法の一つとして、地域資源の聞き取り調査を行い、地域資源集や地域資源マップを作成し、公民館の主催事業や地域づくりに活用する方法を提案する。

(2) 調査実施館

六郷公民館、南八幡公民館

(3) 調査対象人数

各館 10～20人

(4) 調査方法

調査実施館を会場とし、公民館運営審議会専門委員会の委員が、調査対象者（地域に詳しい方）から地域資源について聞き取り調査を行い、地域資源カードを作成する。聞き取り調査は1回2時間程度とする。さらに、写真撮影や追加調査等を行い、地域資源集と地域資源マップを作成する。

(5) 調査実施館の協力内容

調査対象者の選定及び協力依頼、日程及び会場の調整

(6) 調査実施期間

平成30年10月22日（月）～11月30日（金）の間で調整し、その他必要に応じて追加調査を行う。

2 地域資源調査の手順

(1) 宝（地域資源）の情報を集める

①調査票「地域資源聞き取り調査について」（資料1）を事前に地域の方に配布し、記入をお願いする。それを聞き取り調査の当日に持参してもらう。

- ・この調査は、地域の人々の誇りや自慢を発掘・再発見する「地域の宝探し」である。「宝」を探す活動を通して、「自分にとって大切なもの」「残したいもの」「伝えたいもの」などを発見・再発見して、それを自分だけではなく、周りの住民と共通のものとして認め合い、分かち合っていくことを目的とする。
- ・住んでいる地域で「宝」だと思うものをいくつでも「自然」「生活環境」「歴史文化」「産業」「名人」「その他」の6分野に分けて記入してもらう。
- ②調査票の情報をもとに、宝について「なぜ大切に思っているのか」「いつが一番素晴らしいか」「どのようなもの（価値）なのか」など、回答者の想いを詳しく聞き出す。聞いたことをそのままその人の言葉で記録する。
- ・基本的に、地区を構成する複数の町をグループにして聞き取りを行う。
- ・聞き取り調査は、質問して「想い」を聞き出す、聞いた話をノートにメモする、録音する、地図へ記録する、話の内容を補充する文献・資料を収集する、写真を撮影する、などの役割を分担するチームを編成して実施する。
- ・地図上に、「宝」の場所を明記する。

（２）宝（地域資源）カードをつくる

- ①聞き取り調査の情報をワード形式で作成したフォーマット（資料２）に入力し、デジタルデータとしてまとめる。
- ②写真をパソコンに取り込み、（１）のフォーマットの所定の箇所に貼りつける。
- ③地域資源カードはA４用紙に印刷する。地区別、さらに分野別に分け一覧表を作成する。
- ④集まった情報に関連する追加の文献・資料調査を行い、カードに記入する。
- ⑤聞き取り調査の結果をまとめた資料から、どんなことが分かってきたのか、地区の特徴や驚いたこと、気づいたことなどをカードに記入する。
- ⑥地域資源カードを「地域資源資料集」として冊子の形に綴じ、成果物とする。

(3) 宝（地域資源）マップをつくる

- ①マップに掲載する宝をワークショップ形式で決める。
 - ・地域資源カードの6分野のうち、数の多い分野を1～2選ぶ。
 - ・選び出した分野をグループ分けした項目の中から、より多くの人がカードに書きだした宝をマップに載せる候補とする。ただし、数は少なくとも、話し合いで「地域の特色を訴えるためには落とせない」という項目があれば、候補にしておく。
- ②宝の間のつながりを見つける。
 - ・集めた情報から、宝と宝のつながりや宝と人とのかかわりを取り出し、グループにする。
- ③宝のつながりを思いつく限り、書き出してみる。
 - ・付箋に宝を書き出して模造紙に貼り、グループ化して枠で囲んだり、線でつないだりして「つながり図」をつくる。
- ④各つながり図を見ながら、つながりを表す共通の言葉（テーマ）を見つける。
 - ・参加者皆が納得いく言葉に出会うまで意見を出していく。地域外の人たちに地域の特徴を伝えられる言葉を見つける。
- ⑤一万分の一の都市計画図、あるいは、模造紙に絵地図を描いたものなどに、つながりを表す共通の言葉（テーマ）に属する宝の写真を貼る。（テーマや宝の名称、宝同士のつながり等を記入し、地域資源マップを作成し、成果物とする。

3 地域資源カードの記入例

作成した地域資源カードの中から、地区別・分野別に1例ずつ紹介する。

(1) 六郷地区 (資料3)

- | | |
|----------|-----------------|
| ①自然一川 | (早瀬川) |
| ②生活環境一寺社 | (蓮華院) |
| ③歴史文化一史跡 | (三国街道の道しるべ) |
| ④産業一商店 | (グル米四季菜館筑縄店) |
| ⑤名人一郷土料理 | (郷土料理の名人 (個人名)) |
| ⑥その他 | (六郷歴史資料室) |

(2) 南八幡地区 (資料4)

- | | |
|------------|------------------|
| ①自然一川 | (烏川三 (名) 石) |
| ②生活環境一郷土食材 | (根小屋いも) |
| ③歴史文化一石碑 | (石碑の路 (いしぶみのみち)) |
| ④産業一農畜産物 | (養蚕農家) |
| ⑤名人一工芸 | (竹細工の名人 (個人名)) |
| ⑥その他 | (『みなみやわたの歩み』) |

4 地域資源マップの作成例

地域資源マップは、前述したマップ作成の手順に沿って地域の個性をテーマにしたマップを作成することが可能である。

六郷地区の場合は、「幕末・明治維新の記憶」「古い街道・新しい道」「水の行方」「踊りと唄から読み解く下小鳥町」「ふるさとのために戦った人々」「明るく住みよい町づくり」「女性が支える祭り・年中行事」「ふるさとの味の伝承」などのテーマが考えられる。

南八幡地区の場合には、例えば「1300年の歴史の記憶」「石造仏・石碑が語る地域の暮らし」「神仏に願いを託した暮らし」「川と里山の暮らしの記憶」「鉄道が語る地域の歴史」「祭りや行事でつながる」「中世を道から読む」などをテーマとしたマップが候補となろう。

ここでは南八幡地区の4町のうち、山名町と根小屋町を中心とした地域の特徴を「祭りや行事でつながる」をテーマに地域資源マップにしたもの（資料5）を紹介する。

Ⅱ 地域資源の活用による地域づくりへの提案

地区ごとの聞き取り調査を通して集められた地域資源カードは、6つの分野（自然、生活環境、歴史文化、産業、名人、その他）ごとに整理され、「地域資源資料集」としてまとめた。そして、地域資源カードは地域資源マップの作成に活用された。

この調査は、地域資源を地域づくりに活用する、最初の「地域の誇り探し」の段階である。住民自身による宝を探す活動を通して、一人ひとりの住民が「自慢できるもの」「残したいもの」「伝えたいもの」を発見（再発見）し、自分と地域とのつながりを改めて感じ、それを周りの住民との共通のものとして認め合い、誇りを一緒に分かち合っていくプロセスでもある。

では、「宝探し」によって発見（再発見）された宝をどのように地域づくりへと結び付けていけばいいのだろうか。以下では、その方法を提案したい。

1 公民館等を会場にして地域資源調査の成果報告会を開催する。

地域で発見・発掘された実際の宝のほか、宝のリストやマップも展示する。舞台では、名人たちによる踊りや唄などの発表会も行う。展示や発表を聞いた住民から追加の情報が寄せられ、新しい宝の発見（再発見）へとつながることが期待される。

2 発見された宝を分かりやすくすることや保存・伝承・発展させるための活動を行う。

今回の資源調査で発見（再発見）された宝は、そのままではすぐに活用できなかったり、文献には残っていても今は継承されていなかったりといったケースが多くあった。宝を磨く人材を発掘して、できる限り多くの参加者を獲得し、地域の中に宝の価値を理解して、大切に思い、誇りと感じる人々を増やしていくことが重要となる。多くの人々が宝に関心を寄せることによって、宝の生かし方も多様でユニークなものとなっていくことが期待される。

また、外部の専門家による学術的あるいは科学的な視点で宝の価値評価を行い、新たな価値を知ることにも重要である。

3 同じ地域に住む人々が地域の宝の価値を認識し、価値認識を共有するための活動を展開する。

宝を集めて解説した冊子、宝の場所を示したマップ、地域の自然の変化と、それに密接に結びついた人々の生活を一年間の時間の経過に沿って表現した「フェノロジーカレンダー」の作成、宝について学ぶための宝講座や宝をめぐる宝ツアーなど、地域住民が地域の価値を知る機会を作っていく。

また、宝の説明板や宝にアクセスするための標識の設置、宝を活用するための共有のデータベースの作成なども含まれる。さらに、宝によっては映像や音声を記録しておくことも重要である。

4 地域の宝を活用し、地域から学びを得ることができる学習環境をつくる。

地域の宝を活用した学びを提案するのは、地域への誇りと愛着を醸成させる狙いもあるが、地域に起こっている課題に対する解決策のヒントが、同じ地域の中にこそ息づいているからでもある。また、地域づくりという広い視野から考えると、学びと実践をくり返すことで、地域のことは地域で考える人づくりにつながることを期待されるからである。

特に、子どもたちに何かを残していけるような体験交流を行う取り組みを増やしていく。例えば、地域の人から話を聞く「聞き書き講座」を開講し、学校や親子で取り組み、後世に残る冊子の形にまとめる活動、地域の伝統の味を調べ、学校給食や家庭で作れるようにレシピとしてまとめる活動などが考えられる。その際、レシピを地域でどう活用していくのか、どう地域の味を受け継いでいくのか、といった視点が不可欠である。

さらに、小中学校との連携を進め、宝めぐりや他地域の宝ツアーなど、地域の宝探しが教育の中に取り入れられる機会づくりも極めて重要な課題である。

5 地域の外に向かって宝の魅力を情報発信していく活動を行い、地域の宝の価値を共有・共感する事業へ発展させる。

地域の宝自慢を発信するイベント事業を始め、発見された宝を一つに結びつけてストーリー化したツアープログラム（エコツアー）、自然観察会、ワークショップ、農作業体験、体験交流など、様々な形があげられる。

地域の文化や伝統、自然、暮らしについて語れる「語り部」を育成し、学校や地域の行事で話を聞く機会をつくり、地域外の人に対してはガイドとして活躍してもらう。

外部への宝の情報発信方法としては、地域を歩いてもらうためのマップづくり、ガイドブックの発行、ホームページやブログ、SNSといったWEBの活用などがある。

6 宝の活用によって新たな宝を創り出し、地域に経済的な成果をもたらす仕掛けを創出する。

自分たちの地域にどのようにしたら外部の人に来てもらえるのかという視点から、外部の人を引き付ける仕掛けを創り、地域の魅力を自慢し誇ることのできる「地域固有のブランド開発」にチャレンジすることが求められる。例えば、地域の食材を使った創作料理コンテストをおこない、学校や家庭で取り組みながら新たな地域ブランドとして育てる取り組みが考えられる。

7 町ごとに地域資源としての宝を探す講座やワークショップを開催する。

講座やワークショップでは、宝をどのように使い、どのような地域にしたいのかというビジョンを皆で話し合い、理解・関心を示す人物（キーパーソン）を中心に、地域の宝を発見するためのチームづくりから始めていく。そして、それを実現する道筋とやるべき事業計画を取りまとめる。住民の自らの目線で自由な提案を作成することが、地域づくり活動を持続させるカギとなる。出された意見は、町ごとの計画提案とする。話し合いで出てきた課題についても、その原因や対応策、方向性を検討することで、課題解決に向けた取り組みにつなげていく。町ごとに開催することにより、住民が身近な課題に対して当事者意識をもって取り組むとともに、課題解決の担い手となることも期待される。

おわりに

地方創生の時代の公民館に求められる役割は、「住民主体のまちづくり」の支援である。すなわち、個人の要望や社会の要請に応えながら、様々な連携・協働により「学び」と「地域づくり」をつなぐ、新たな仕組みを創出する支援を行うことである。

多くの住民のまちづくりへの参画を促すためには、住民一人ひとりの心の中に、自分の住む地域に対して愛着と誇りを育てることが重要である。愛着のないところに、主体的な活動は生まれない。

地域は、一部の住民の活動だけで活性化するものではない。そこに住むすべての人が何らかの役割を持ちながら地域づくりに参加し、互いに学び合い、コミュニケーションを深める中で、地域は活性化していく。そのため、まずは地域住民が地域の宝を知るとともに、活性化のための計画を立案できるような学習機会の提供が求められる。私たちの誰もが地域の主人公となる地域づくりが、まさに今求められている。

今回の資源調査は、六郷地区と南八幡地区の2地区で実施されるにとどまったが、他の地区でも自分たちの地域について語り合う機会をもっていただけることを期待したい。そして、それぞれの地域で他の地域にはない、魅力的な地域が創られることを願っている。

地域資源聞き取り調査について

この地域資源の聞き取り調査は、地域の人々の誇りや自慢を発掘、再発見する「地域の宝探し」です。「宝」を探す活動を通じて、「自分にとって大切なもの」「自慢できるもの」「残したいもの」「伝えたいもの」などを発見・再発見して、それを自分だけでなく、周りの住民と共通のものとして認め合い、分かち合っていくことを目的としています。

それを踏まえ、お住まいの地域であなたが「宝」だと思うものをこの事前調査票にご記入ください。有名無名は問いません。ご記入いただいた内容をもとに調査当日お話を聞かせていただきます。「自然」「生活環境」「歴史文化」「産業」「名人」の5つの分野がございます。記入できる分野について、いくつでも結構ですので地域の宝だと思うものをご記入ください。

ご多用のところ、お手数をおかけしますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

高崎市公民館運営審議会
会長 山崎 紫生

記入者名	
住所	
電話番号	

聞き取り調査内容

- ・事前にご記入いただき、聞き取り調査当日にこの用紙をお持ちください。
- ・「自然」「生活環境」「歴史文化」「産業」「名人」の5つの分野で、地域資源の名称とその内容・宝だと思う理由等をお聞きします。
- ・お名前等の個人情報やご記入いただいた個人名については、公表することは一切ありません。

【問い合わせ先】

高崎市中央公民館 教育担当 大野・齋藤

電話 027-322-8605 / FAX 027-386-8300 / E-mail: chuou-kou@city.takasaki.gunma.jp

- ① あなたが地域の宝だと思う「**自然**（気象、山、川、湧き水、風景、動植物など）」
について



- ② あなたが地域の宝だと思う「**生活環境**（料理、郷土食材、地域信仰、寺社など）」
について



- ③ あなたが地域の宝だと思う「**歴史文化**（地域にゆかりの人物・出来事、文化財、史跡、石碑、歴史街道、年中行事、祭り、イベント、伝説・伝承、歌い継がれた歌・踊りなど）」について



- ④ あなたが地域の宝だと思う「**産業**（伝統技術、工芸品、特産品、農畜産物、飲食店、商店、工場）」について



- ⑤ あなたが宝だと思う「**名人**（芸能・郷土史・工芸・郷土料理・民話等の名人）」
について



- ⑥ その他、地域のお宝だとおもうもの



地域資源 No. (通し番号)

分類 (大分類 小分類)

(地域資源の名称)

(写 真)

地 区 : (地区名)

場 所 : (町名等)

撮影日 : (平成〇年〇月〇日)

キーワード : (キーワード)

(詳しい説明を記載。地元の方の言葉で記載。)

参考資料 : (資料名)

(わかったこと、驚いたこと、気が付いたこと等を記載)

ヒアリング対象者 : (氏名)

ヒアリング実施日 : 平成〇年〇月〇日

記録作成者 : (氏名)

記録作成日 : 平成〇年〇月〇日

地域資源 No. (1-3-1)

分類（自然-川）（早瀬川）



地 区：六郷

場 所：上小鳥町

撮影日：平成 31 年 1 月 24 日

キーワード：用水路、水田開発、川

早瀬川は、榛名白川の支流から水を引いている。上小鳥町に引くので、浜川の長学寺の東に水門がある。水門から東南東へ少し進んでから南に引いて、宗止池の南の田んぼに水を提供している。高崎経済大学附属高校の南東に水門があって、大雨のときは調整していて、最後は井野川に流れている。

水路はもともと自然の川で、昔はくねくねしていたみたい。昔は溢れていたこともあって、堤防のところなんかは、ずいぶん出たみたい。早瀬川の水量が安定しないから宗止池を造ったのかな。

平安時代末期から鎌倉時代にかけて、石上氏→長野氏は土豪として、青木の庄を引き継ぎ、水田開発を進め、経済的な基盤を確立した。湧き水を利用した水田から、榛名白川の分流を利用した早瀬川＝十二堰を用水路として開発した。環濠屋敷への用水や田んぼの用水として利用した。（中略）長野康業（乙業の 5 代前・業政の 8 代前）の功績。

参考資料：箕輪初心「群馬：高崎市の稲作と用水路②」「長野氏の開発①」

https://s.webry.info/sp/53922401.at.webry.info/201104/article_5.html

早瀬川に十二堰という別名があることに驚いた。また、歴史的にも、六郷地区の水田耕作において重要な意味を持っていたということが大変興味深かった。

川から水を引いて用水路を造り、水田開発に取り組んだ経験は、南八幡地区とも共通する。水の活用について両地区を比較してみよう。

ヒアリング対象者：〔上小鳥町の男性〕

ヒアリング実施日：平成 30 年 11 月 19 日

記録作成者：山口堅二、森周子、山崎紫生

記録作成日：平成 31 年 1 月 22 日

地域資源カード

地域資源 No. (2-3-5)

分類 (生活環境—寺社)

(蓮華院)



地 区：六郷

場 所：下小鳥町

撮影日：平成 31 年 1 月 24 日

キーワード：小鳥小学校発祥の地

創立の時代は不詳であるが、いろいろな史料から室町時代と推測できる。六郷小学校の前身となる小鳥小学校発祥の地。寺には様々な石造がある。特に二十二夜様は女性の神、お産の神様として信仰されている。石造の台座前には、「村中女人講中」と刻まれ、春秋の彼岸に念仏をあげて供養している。この念仏をあげる女性たちは「和讃会」として活動している。また、慰霊碑として第 2 次世界大戦の戦死犠牲者 56 名の霊が眠っている。全員が十代二十代の若者で、戦争の悲劇を改めて思えば感無量である。

幸宮神社の前に、蓮華院という寺院がある。幸宮神社の神宮寺だろうか。
雷様の供養碑は非常に珍しい。今まで、見かけない。

ヒアリング対象者：〔下小鳥町の男性〕

ヒアリング実施日：平成 30 年 11 月 15 日

記録作成者：山崎紫生

記録作成日：平成 30 年 12 月 28 日

地域資源カード

地域資源 No. (3-2-2)

分類 (歴史文化—史跡)

(三国街道の道しるべ)



地 区：六郷

場 所：下小鳥町

撮影日：平成 31 年 1 月 24 日

キーワード：史跡、道標、碑

この道しるべは、高さ約 189cm、幅 26cm、厚さ 21cm の安山岩に刻まれ、

正面 右越後、ぬまた、さわたり、いかほ、
志ま、くさつ、かわらゆ 道

左側面 はるなど記されている。文化 7 年 (1807) の建立。昔は、三国街道を往還と呼んでいた。三国往還は五街道外ではあるが官道で、江戸時代には「三国通り」あるいは「三国道」と呼ばれ、北国大名の参勤交代、米や酒の輸送でたいそうにぎわった。また、佐渡金山から産出した金塊を江戸へ運ぶ黄金道でもあった。

道は高崎本町から北上し、飯塚追分から左の道を通り、北へ進み、下小鳥の三叉路を右に進み、大八木集落の西寄りを抜けて金古宿へ向かった。この道しるべは現存する高崎宿から最初の道標であり、行きかう旅人が汗をぬぐって道をたどった様子がしのばれる。この道標は金古宿問屋善次郎が主となり、旅人客誘致のために建設されたという。

参考資料：『下小鳥町内誌』PP. 43-48

昔の道は、往還と呼ばれたが、南八幡地区でも旧道は往還と呼ばれた。昔の往還をつないでみるのも面白いかも。この道しるべは、単なる道標ではなく、次の金古宿の商売人が旅人を自分たちのところに呼び込むために建てた広告塔であったとは、面白い。

ヒアリング対象者：〔筑縄町の男性〕

ヒアリング実施日：平成 30 年 11 月 15 日

記録作成者：山崎紫生

記録作成日：平成 30 年 12 月 29 日

地域資源カード

地域資源 No. (4-4-1)

分類 (産業一商店)

(グル米四季菜館筑縄店)



地 区：六郷

場 所：筑縄町 55-5

撮影日：平成 31 年 1 月 24 日

キーワード：直売所

J A たかさきのファーマーズマーケット (直売所)。地元の新鮮な採れたて野菜が購入できる。生産者が自ら作った加工品も魅力である。おすすめ加工品として、高崎うどん、高崎米粉かりんとうがある。営業時間は午前 9 時から午後 6 時まで。

参考資料：J A グループ グル米四季菜館ホームページ

<https://life.ja-group.jp/farm/market/detail?id=471>

採れたての地元野菜や手作りのお惣菜やお弁当をはじめ、季節の切り花や鉢植えの花々も手ごろな値段で買い求めることができる。

ヒアリング対象者：〔下小鳥町の女性〕

ヒアリング実施日：平成 30 年 12 月 21 日

記録作成者：森周子、山崎紫生

記録作成日：平成 30 年 12 月 28 日

地域資源カード

地域資源 No. (5-4-1)

分類（名人一郷土料理）（郷土料理の名人）



地 区：六郷

場 所：下小鳥町

撮影日：平成 30 年 10 月 26 日

キーワード：行事食の継承

〔下小鳥町の女性〕。

短大の学生対象にアンケートをしたところ、おはぎを食べたことのない学生が 4 名いたことに驚いた。伝統行事とそれにまつわる郷土料理に親しむ機会を教えることが重要だ。

公民館でサークル「男の料理教室」の指導者としても活動している。

おすすめ 2 品 小魚と大豆を素材にした「かむかむ揚げ」正月料理や普段のおつまみに
大根、ビール、ざらめ、和からしを樽につけた発酵食品 「大根ビール漬け」

授業での聞き取りで、おはぎを食べたことのない大学生がクラスに 4 人もいたので、びっくりしたという。公民館や学校で伝統食や行事食に親しむ機会を設けることが重要となる。地域のお祭りにお赤飯のおにぎりを作ってみよう。

ヒアリング対象者：〔下小鳥町の女性〕

ヒアリング実施日：平成 30 年 12 月 21 日

記録作成者：山崎紫生

記録作成日：平成 30 年 12 月 27 日

地域資源カード

地域資源 No. (6-1-3)

分類 (その他)

(六郷歴史資料室)



地 区：六郷

場 所：高崎市立六郷小学校

撮影日：平成 31 年 1 月 24 日

キーワード: 小学校内の博物館的施設、高崎藩五万石騒動の学習材化、五万石騒動の紙芝居

平成 8 年度末に余裕教室を改造。県と国の補助。

資料は、同校の教職員の校内研究で地域研究を取り上げ、六郷地区や農具を調べたとき、地区の住民から寄贈してもらったもの。資料室は、歴史資料やコンピュータを児童・地域住民に利用してもらうために公開し、地域と共学することを目指している。

常設展示：農具などの資料を田や畑、養蚕や織物、農家のくらしに関する 3 部分に分けて展示。

児童の社会科・生活科などの授業に活用、いつでも見られるので、休み時間にも一人で学ぶことができる。

特別企画展：テーマを掲げて公開。本施設を地域・市民に知ってもらい、地域のことについて共に学ぶことをねらいとする。

第 1 回特別企画展「江戸と明治の時代の間、高崎藩五万石騒動を今に」

参考資料：『平成 10 年度六郷歴史資料室 六郷歴史資料室で学ぼう-小学校内の博物館的施設の活用-』
高崎市立六郷小学校、1999 年

六郷小学校の教職員が校内研修で地元をテーマに調査研究を行ない、その成果を空き教室を活用した学内博物館として整備したことは、すばらしい。資料室は子どもたちだけでなく、地域住民にも開かれた学習と交流の場となっている。空き教室の活用方法として大変参考になる。

ヒアリング対象者：〔上下小鳥町の男性〕

ヒアリング実施日：平成 30 年 11 月 15 日

記録作成者：山崎紫生

記録作成日：平成 30 年 12 月 31 日

地域資源 No. (1-3-2)

分類 (自然 - 川)

(鳥川三 (名) 石)



地 区：南八幡

場 所：根小屋町一本松橋近くの
鳥川

撮影日：平成 31 年 1 月 21 日

キーワード：川の中の岩、川(神)
籠石

高崎市内には鳥川の上流から「聖石」「赤石」(佐野橋から 500m ほど下流、定家神社の下)「川(神)籠石」(こうごいし)(一本松橋の上流 200m ほどの位置)がある。昔の渡しだったところ。渡河の際に川の水位を図る目印に使われた。

鳥川に一本松の渡しとして、下佐野・根小屋間を結ぶ渡し舟があり、鉄索を張り、ロープで舟を交互に繰り渡したそう。

子どもの頃、よく水遊びしたがな。

鐺川にも「猫岩」があった。中学の時、そこんところにプールができて、泳いだことがある。田中絹代たちが来た所らしい。でも岩は最近の台風(平成 25 年 9 月 16 日の台風 18 号)による増水時の流木で、頂部が破壊されてしまった。

鳥川にかかる一本松橋の上から上流方向に目をやると、川(神)籠石が見える。また、昔の木橋の跡が何本か見えることがある。単なる巨石としか見えない岩も、渡河の際に川の水位を図る重要な目印だったことが分かる。

ヒアリング対象者：〔山名町の男性〕

ヒアリング実施日：平成 30 年 12 月 13 日

記録作成者：山崎紫生

記録作成日：平成 30 年 12 月 30 日

地域資源カード

地域資源 No. (2-2-1)

分類（生活環境 - 郷土食材）

（根小屋いも）



地 区：南八幡

場 所：根小屋町

撮影日：平成 31 年 1 月 29 日

キーワード：さといも、だいに

根小屋、山名、木部、阿久津は八幡村という一つの村でした。それぞれの土壌に適した野菜が作られました。根小屋はいも（さといも）。山名はだいこん、木部はごぼう、阿久津はにんじん。南八幡の適地適作を表した言葉で「だいに」というものがあり、山名だいこん、根小屋いも、木部ごぼう、阿久津にんじんという 4 町の適地適作を表した言葉。

公民館で文化祭をやるときに、この 4 つの食材をメインに使用した「だいに」という名の料理（けんちん汁のようなもの）を振舞っている。けんちん汁は昔から食べられている。

根小屋は山の下で土がしけっているので、さといもの適地だと言われている。さといもはよく煮つ転がしにして食べる。小さいさといもを茹でて皮の下をもつと、皮がむけて「ひょっくりいも」といっておやつに食べていた。

根小屋の土壌に適した野菜として、さといもがある。

南八幡地区の郷土食材である大根、ゴボウ、人参、さといもに地元の小麦から作る手打ちうどんを加えれば「おっきりこみ」になるし、豚肉を加えると「トン汁」にもなる。根菜類は煮物にぴったり。それぞれの食材の煮物以外の味わい方を提案するコンテストを開催するのも良いのでは。

ヒアリング対象者：〔山名町の男性〕

ヒアリング実施日：平成 30 年 11 月 22 日

記録作成者：山崎紫生、綾部園子

記録作成日：平成 30 年 12 月 30 日

地域資源カード

地域資源 No. (3-2-4)

分類 (歴史文化 - 石碑)

(石碑の路 (いしぶみのみち))



地 区：南八幡

場 所：山名町

撮影日：平成 31 年 1 月 21 日

キーワード：高崎自然歩道、万葉歌碑

上信電鉄山名駅を下車、線路沿いに西の方向へ歩いていくと、上信電鉄のガードの手前に「石碑の路」の碑が目に入ってくる。「石碑の路」とは、山名丘陵（観音山丘陵の東端）の尾根筋に沿って整備された全長約 22km の高崎自然歩道のうち、山名八幡宮を起点とし、山上碑と金井沢碑を結ぶ約 5km の自然歩道のこと。信澤克己さんが万葉歌碑など 28 基の石碑を私費で自然歩道に設置したことに由来する。

建築技術屋の信澤さんは、還暦を機に根小屋町に移り住んだ（1971～1977 年）。そして、「何か残る仕事をしたい」と願っていた。そして、上野国歌 49 首のうち 33 首の石碑を残そうと考え、60 首を目標に建立することを決意した。利用しようとした土地はほとんど国有林であったため、使用許可を高崎市に申請、昭和 48 (1973) 年 1 月、当時の沼賀健次市長のお墨付きをもらうことができた。まずは、山名八幡宮から入って 4km ほどの本道部分と根小屋城址に至るなど 2 本の枝道部分に石碑の路の建碑を進めた。

参考資料：山崎紫生編『上野三碑と石碑の路』文科創生研究所、2017 年

山上碑と金井沢碑を結ぶ約 5 km の自然歩道に設置された万葉歌碑を活用して、参加者が万葉歌人に扮し、お気に入りの歌碑の前で歌を詠みあげる企画はどうだろうか。

ヒアリング対象者：〔山名町の男性〕

ヒアリング実施日：平成 30 年 11 月 22 日

記録作成者：山崎紫生

記録作成日：平成 30 年 12 月 30 日

地域資源カード

地域資源 No. (4-3-4)

分類 (産業 - 農畜産物)

(養蚕農家)



地 区：南八幡

場 所：根小屋町

撮影日：平成 31 年 1 月 21 日

キーワード：養蚕、かいこ、碓氷製糸

〔根小屋町の女性〕。夫婦で養蚕に携わっている。鬼石町から嫁に来て教わった。今、一番大変なのは、「じょうぞく」の時。お手伝いさんに来てもらわなくちゃならないから。それまでは、夫婦二人でやっていた。人がくるのは朝の 6 時から 7 時ごろから午後 4 時まで。結構早く終わっちゃう。私なんか朝の 1 時から寝ないでやっている。10 人来る。最後に碓氷製糸に行く。国内では唯一。

今、高崎市で、4 軒しか養蚕農家はない。うちは春蚕が 150g くらい、初秋が 70g、晩秋が 150g。他の 3 軒は今 40g だってやってないですよ。

高崎市でも数軒しか残っていない養蚕農家が根小屋町にしっかり残っていることは、本当に稀有なことであり、ありがたいことだと思う。〔根小屋町の女性〕のところの繭は、山名町在住の日本でただ一人の繭糸業者〔山名町の男性〕による繭の選別作業を経て、安中市の碓氷製糸に運ばれるという話を聞いてビックリした。後継者の問題をどう解決するかが、課題である。

ヒアリング対象者：〔根小屋町の女性〕

ヒアリング実施日：平成 31 年 1 月 5 日

記録作成者：山崎紫生

記録作成日：平成 31 年 1 月 5 日

地域資源カード

地域資源 No. (5-3-3)

分類 (名人 - 工芸)

(竹細工の名人)



地 区：南八幡

場 所：阿久津町

撮影日：平成 31 年 1 月 21 日

キーワード：養蚕籠、公民館、70、80 代

〔阿久津町の男性〕は竹細工の名人ですよ。竹細工ができるのは、あとは〔阿久津町の男性〕さん。竹細工は、木部も含めてこのへんだっていうと 10 人くらいいましたよね。阿久津のうちの方で 3 軒あったんだよ。籠を作ったりする。結局、養蚕籠が中心。まあ竹はあったから、養蚕籠なり、まあ農具はほとんど竹でね。自分ちでつくって自分ちで使うっていうような。

竹細工は、公民館で、12 年くらいやってましたよ。だからずいぶん作る人はいるんだけど。できるのは、もう 70、80 代くらいの人になっちゃうね。

おれの親父だって作ってて、まだ竹細工用の道具一式ある、竹なたとか。でも、使い方だとかがわからない状態ですね。〔阿久津町の男性〕の世代の人たちがいなくなっちゃったら、竹細工自体がもう地域からなくなっちゃう。ちっとはやっとくといいいんだよね。刳取りとかざるとか最低いくつか基本的なもののくらいは、竹の切り方、編み方くらいはやっぱり必要性はありますよね。

参考資料：『みなみやわたの歩み』第三集 民俗その一、第七集 昭和の記録

竹を使ったマイ箸作りなど、学童の子どもたちに。竹とんぼ作り、竹馬体験。夏の時期は、七夕飾りとそうめん流し（公民館 2 階の調理室、バルコニーから）などもおもしろい。器も竹で作る。名人の手仕事を直接見せてもらえる機会も貴重。

〔山名町の男性〕が鎌一丁で仕上げる作品は、釣り人やかごやなどの人物描写から竹トンボやブローチなど多岐にわたる。昔は養蚕や家庭の道具などに使われた竹は、今はほとんど活用されていない。竹の食器や道具、竹酢や竹チップなどの他にも新しい竹の活用法を考えてみたい。「鹿島の七日火」の際に、参道や境内に竹の灯籠を設置してみるのも幻想的な雰囲気づくりの一助になるかもしれない。その際には、竹細工の名人たちのお力をお借りしたい。

ヒアリング対象者：〔阿久津町の男性〕

ヒアリング実施日：平成 30 年 11 月 26 日

記録作成者：小屋美香、新利恵子、山崎紫生

記録作成日：平成 30 年 12 月 25 日

地域資源カード

地域資源 No. (6-1-1)

分類 (その他)

『みなみやはたの歩み』



地 区：南八幡

場 所：南八幡公民館

撮影日：平成 31 年 1 月 28 日

キーワード：南八幡の歴史、郷土史、
南八幡郷土史会

平成 13 年、南八幡公民館長の小嶋博さんが生涯学習推進委員会で、高崎市制百周年記念として創設された「地域まちづくり推進事業補助金」を活用して行う事業として、2 つの考えを提案した。一つは、公民館主催事業として「文化講座」の新規開催、二つめは、地域の高齢者の豊かな経験や知識を生かした「地域の掘り起し」の事業を行うというものだった。その具体的な内容は、地域に残る歴史を後世に伝える＝郷土誌を作ることであった。小嶋館長の考えは公民館運営推進委員会、区長会等でも協議され、正式決定された。7 月に新たに「南八幡郷土史会」（須川忠夫会長・33 名）が発足した。

記念すべき第 1 集のテーマは「水」と決定。会員はもとより一般の住民の方々にも投稿をお願いした。南八幡地区は烏川と鐺川に挟まれた三角州にあるため、古くから水に悩まされ大きな被害を被ってきた歴史がある。そこで、「水」をテーマにすれば原稿がたくさん集まるだろうとの考えだった。11 月 6 日に創刊号が発刊された。第 2 集は「道と生活」をテーマとして平成 14 年 3 月に発刊するハイスピード。その後は概ね年に一冊のペースで刊行してきた。途中間をおき、平成 24 年 9 月に「東日本大震災」をテーマに第十集を発刊。それ以後休刊。

参考資料：『みなみやわたの歩み』第五集 民俗その三

平成 13 年に南八幡郷土史会が発足してから平成 24 年に休刊になる 11 年間、会誌『みなみやわたの歩み 大正・昭和・平成の郷土史』を発刊してきたことに驚きの念を禁じ得ない。

それも、地域の高齢者たちの手により地域に残る歴史を探し集め、それらを冊子にまとめて後世に伝えようという目的で始まったという。刊行再開を期待したい。今回の聞き取り調査では、情報の確認・参照の際の重要な資料となった。

ヒアリング対象者：〔山名町の男性〕

ヒアリング実施日：平成 30 年 11 月 22 日

記録作成者：山崎紫生、綾部園子

記録作成日：平成 30 年 12 月 26 日

祭りや行事で

山名ハ幡宮参り

4月15日・10月15日

●鹿島宮と若宮ハ幡宮の参りの日に、南ハ幡ハ幡宮の宮司さん、両宮で神事を行う。

納涼会で相いりし。みこしは、上原勉さんの製作。昭和48年にお目見え。

●南ハ幡地蔵納涼祭

南ハ幡小学校庭
8月第2日曜日

- 盆踊り歌
- 南ハ幡さんお音頭
- 正調二段おとし

●南ハ幡昔年国時代から受け継がれた「二段おとし」。参り人は、少数。

手打ちうどん作り体験教室
南ハ幡中学校 2年生対象
4月17日

- ちけしどん
- おつきりこみ

鹿島(宮) 2017年4月
七日火 8月第2土曜日

●鹿島宮 宝性寺は根小屋町2丁の宮本組の洋館全焼後に利用。住職が、石火の文能に入める。

『鹿島大明神の物語』
鹿島宮の由来と七日火の意義を伝える本(2019年刊)

●子ども園、幼稚園、小学校、中学校からとうろくや俳句や詩多数。参りの当日、参道で展示。

なんばう縁起市
毎月第2土曜日
10:00～14:00

●8月の縁起市は、鹿島宮の参道で開催(2017年～)

●おかしな会(地元の文化グループ)
おかしな会、地元食料店と交流。おかしな会、地元食料店と交流。(根小屋町第2住居センターサロン)

●小型のとうろくに子どもたち、俳句と絵を貼る準備(学生ボランティア)

どんと火つき 2019年1月
根小屋第2 1月13日 10:00
愛好会、火つき

●根小屋2世サロン
根小屋町第2住居センター
第4木曜日 10:30～12:00

どんと火つき 2019年1月
根小屋第1 1月13日 9:00～10:00
町内会、火つき

●南ハ幡地蔵では、この他に木部町と山名西の合計4ヶ所。

若宮ハ幡宮

●小山一旗5軒で
お参りしつゝ
4.15と10.15

●山名ハ幡宮司による
祝詞 4月15日

屋敷まつり
12月1日 (日曜日)

●お参り、餅とわらわを
るかに炊く。後に見
ては、ワラワラ



石宮・屋敷まつり



石宮・屋敷まつり

つながる

資料5



平成 29・30 年度 高崎市公民館運営審議会実施報告

	開催日時	開催会場	内 容
第 1 回	平成 29 年 7 月 14 日(金) 午後 1 時 30 分 ～2 時 50 分	高崎市 中央公民館 第 1 集会室	1 委嘱状交付 2 会長、副会長の選出について
第 2 回	9 月 25 日(月) 午後 1 時 30 分 ～ 2 時 40 分	高崎市 東公民館	東公民館の取り組みについて
第 3 回	10 月 31 日(火) 午後 1 時 30 分 ～ 4 時	高崎市 中央公民館 集会ホール	高崎市公民館研究集会へ参加 テーマ「地方創生時代の公民館の役割—自らの町 は自らが創る」
第 4 回	平成 30 年 1 月 30 日(火) 午後 1 時 30 分 ～3 時 7 分	高崎市 中央公民館 第 1 集会室	1 平成 29・30 年度諮問について 2 調査・研究テーマについて
第 5 回	3 月 9 日(金) 午後 1 時 30 分 ～ 2 時 7 分	高崎市 中央公民館 第 1 集会室	1 高崎市公民館長任命に関する意見聴取 2 平成 29 年度高崎市公民館事業実績報告・審議 3 平成 29・30 年調査・研究テーマについて
第 6 回	7 月 23 日(月) 午前 10 時 ～10 時 55 分	高崎市 中央公民館 第 1 集会室	1 委嘱状交付 社会教育関係者 1 名 学識経験者 1 名 2 平成 29・30 年度提言内容について 3 専門委員会の設置について
第 7 回	10 月 1 日(月) 午前 10 時 ～11 時 5 分	高崎市 南八幡公民館	1 南八幡公民館の取り組みについて 2 地域資源の調査方法について
第 8 回	10 月 30 日(火) 午後 1 時 30 分 ～4 時	高崎市 中央公民館 集会ホール	高崎市公民館研究集会へ参加 テーマ「地域課題の解決に向けた公民館の役割」
第 9 回	平成 31 年 2 月 4 日(月) 午後 1 時 30 分 ～3 時 14 分	高崎市 中央公民館 第 3 学習室	平成 29・30 年度提言審議
第 10 回 (予定)	3 月 5 日(火) 午後 1 時 30 分 ～3 時 30 分	高崎市 中央公民館 第 1 集会室	1 高崎市公民館長任命に関する意見聴取 2 平成 30 年度高崎市公民館事業実績報告・審議 3 平成 29・30 年度提言

専門委員会実施報告

	開催日時	開催会場	内 容
第 1 回	平成 30 年 10 月 1 日(火) 午前 11 時 17 分～午後 12 時	高崎市 南八幡公民館	地域資源の調査について
第 2 回	平成 31 年 1 月 10 日(木) 午後 1 時 30 分～3 時 12 分	高崎市 中央公民館 第 1 集会室	提言（案）について

地域資源聞き取り調査及び地域資源カード作成

実 施 日	会 場	内 容
平成 30 年 11 月 14 日(水) 11 月 15 日(木) 11 月 16 日(金) 11 月 19 日(月) 12 月 21 日(金)	高崎市六郷公民館	六郷地区地域資源聞き取り調査
11 月 22 日(木) 11 月 26 日(月)	高崎市南八幡公民館	南八幡地区地域資源聞き取り調査
12 月 25 日(火)	高崎市中央公民館 第 2 集会室	南八幡地区地域資源カード作成
12 月 26 日(水)	高崎市中央公民館 第 1 集会室	六郷地区地域資源カード作成

委員に関わる公民館行事

開催日	会議・事業	場 所
平成 29 年 8 月 1 日(火)	群馬県公民館連合会公運審部会総会	高崎市中央公民館
8 月 24 日(木) 8 月 25 日(金)	第 39 回全国公民館研究集会 兼 第 58 回関東甲信越静公民館研究大会群馬大会	前橋市民文化会館ほか
平成 30 年 5 月 25 日(金)	群馬県公民館連合会総会及び研修会	前橋市中央公民館
8 月 7 日(火)	群馬県公民館連合会公運審部会総会	高崎市中央公民館
11 月 1 日(木) 11 月 2 日(金)	第 40 回全国公民館研究集会東京大会	日本青年館
11 月 20 日(火)	第 35 回群馬県公民館研究集会 兼 公運審部会研修会 兼 第 54 回東部ブロック研究集会	館林市文化会館
12 月 12 日(水)	西部ブロック公民館研修会	富岡市生涯学習センター

平成29年度 高崎市公民館運営審議会委員名簿

第1号委員（学校教育の関係者）

No.	氏 名	推薦団体・役職等	備 考
1	相 模 透	高崎市小学校長会（高崎市立里見小学校長）	

第2号委員（社会教育の関係者）

No.	氏 名	推薦団体・役職等	備 考
2	関 崇 裕	高崎青年会議所文化推進室長	
3	岩 井 真	高崎市PTA連合会常任理事	
4	樋 口 克 己	高崎ユネスコ協会長	

第3号委員（家庭教育の向上に資する活動を行う者）

No.	氏 名	推薦団体・役職等	備 考
5	小 屋 美 香	育英短期大学准教授	
6	綾 部 園 子	高崎健康福祉大学教授	

第4号委員（学識経験のある者）

No.	氏 名	推薦団体・役職等	備 考
7	松 本 賢 一	高崎市議会総務教育常任委員長	
8	飯 野 茂	高崎市区長会副会長	
9	山 崎 紫 生	元高崎商科大学教授	会 長
10	森 周 子	高崎経済大学教授	
11	小 見 勝 栄	学童クラブ園長、元教育委員長	副 会 長
12	吉 村 晴 子	ガールスカウト群馬県連盟顧問、染色家	
13	関 正	倉沢地区選出委員	
14	山 口 堅 二	箕郷地区選出委員	
15	中 司 恵 理	群馬地区選出委員	
16	丸 茂 ひろみ	新町地区選出委員	
17	松 田 裕 子	榛名地区選出委員	
18	新 利 恵 子	吉井地区選出委員	

第5号委員（公募した市民）

No.	氏 名	推薦団体・役職等	備 考
19	高 山 和 一 郎		
20	堤 香 代 子		

平成30年度 高崎市公民館運営審議会委員名簿

第1号委員（学校教育の関係者）

No.	氏 名	推薦団体・役職等	備 考
1	相 模 透	高崎市小学校長会（高崎市立下里見小学校長）	

第2号委員（社会教育の関係者）

No.	氏 名	推薦団体・役職等	備 考
2	関 崇 裕	高崎青年会議所関係人口創出委員会会計幹事	
3	瀬 間 宏一郎	高崎市PTA連合会常任理事	
4	樋 口 克 己	高崎ユネスコ協会顧問	

第3号委員（家庭教育の向上に資する活動を行う者）

No.	氏 名	推薦団体・役職等	備 考
5	小 屋 美 香	育英短期大学准教授	専門委員
6	綾 部 園 子	高崎健康福祉大学教授	専門委員

第4号委員（学識経験のある者）

No.	氏 名	推薦団体・役職等	備 考
7	長 壁 真 樹	高崎市議会総務教育常任委員長	
8	飯 野 茂	高崎市区長会副会長	
9	山 崎 紫 生	元高崎商科大学教授	会 長 専門委員
10	森 周 子	高崎経済大学教授	専門委員
11	小 見 勝 栄	学童クラブ園長、元教育委員長	副 会 長 専門委員
12	吉 村 晴 子	ガールスカウト群馬県連盟顧問、染色家	
13	関 正	倉渕地区選出委員	専門委員
14	山 口 堅 二	箕郷地区選出委員	専門委員
15	中 司 恵 理	群馬地区選出委員	専門委員
16	丸 茂 ひろみ	新町地区選出委員	専門委員
17	松 田 裕 子	榛名地区選出委員	専門委員
18	新 利 恵 子	吉井地区選出委員	専門委員

第5号委員（公募した市民）

No.	氏 名	推薦団体・役職等	備 考
19	高 山 和 一 郎		
20	堤 香 代 子		

